

## 総務産業建設常任委員会 日野駅舎再生事業視察

本委員会では、7月13日(水)日野町へ行政視察研修に伺った。役場で、日野駅舎再生事業の取り組みを中心に、説明を受けた。

日野駅は、大正3年に建てられた木造駅舎。築100年を超えた駅舎は、老朽化が進み、解体を検討するなか、住民が近江鉄道に協力を呼びかけ、人々に愛されてきた日野駅を100年先まで残し、町の玄関口としてのにぎわいを創出するために、日野駅再生プロジェクトを開始された。

このプロジェクトには、地元をはじめ全国の多くの皆さんから、85,620,870円におよぶご寄附があり、地方創生交付金33,208,552円、また町債32,019,720円、合わせて150,879,142円の事業費で行われた。

駅舎の中には、鉄道ミュージアムや日替わり店主によるカフェも連日営業されていた。観光案内交流施設も町をあげて、住民と行政が力を合わせ、観光振興に取り組んでいる姿勢がみられた。

視察した内容を、今後の当町の議会活動に反映していく所存です。

総務産業建設常任委員会  
委員長 森野 隆



昭和時代の懐かしさがある駅舎内



日野駅舎前

## 町議会「防災研修」を実施

町議会では、9月4日(日)町職員非常招集訓練に合わせて、防災研修を実施した。

訓練想定として、午前7時頃に鈴鹿西縁断層帯を震源とする大規模地震が発生し、湖東地域内で、震度7を観測し、家屋の倒壊や火災により、多数の死傷者を確認しており、町災害対策本部が直ちに設置された。はじめに、議員参集訓練を実施し、備蓄品の確認を行った。また、救急救命について研修を行った。

身の安全を守る行動をとることによって、「自分自身の安全は自分で守る」ことを身につけ、災害があってもケガをしないことを基本に、身近な人を助けるなど地域防災力の強化、防災意識の高揚、防災行動力の向上を図ることができた。



救急救命講習

## 活気あるまちづくり

### Q 西部地域における農村環境対策のまちづくり

### A 行政も皆様と連携して、取り組む



小菅 久宣 議員



録画配信はこちら

#### 西部地域における農村環境対策のまちづくり

**問** 町の8号線を境とした西部地域とは、行政政策が遅れた各事業の未実施地域である。長年の懸案となっている、国道8号線御幸橋付近交通混雑対策および河川改修洪水防災対策等で、現在予定・計画・進行している事業が、地域内の農地に計画されて農地が買収開発されようとしている。農地が分断し面的条件がより悪くなり持続可能な営農継承が困難になると予想される。農地の面的整備(ほ場整備事業)と公共事業を総合的に整備し、西部地域の総合開発事業と捉えたい。

**答** (副町長) 西部地域のまちづくりや、地域づくりに対する行政や地域の役割であるが、不飲川改修推進協議会では、各沿線の区長や地元委員の参加をいただき、県からの河川部局や道路部局の担当者が参加のもと、情報の共有や意見交換、関連事業との調整などを図り進めている。



各事業の未実施地域

**問** 町行政にも様々な課があり縦割りになっている。各事業の調整及び協議できる協議会の立ち上げが必要でないかと考えている。

**答** (副町長) きのう、こうした協議会の場において、行政も関係者の皆様と連携して、関係する課が出席するなどして、しっかりと取り組んでいく。

**問** 町独自の環境が、ものがたり・ストーリーを生み、そのことがオンラインでブランドと考える。個人が、イチから立ちあげるのも冒険であり、農業の6次化や一般町民、学生等のチャレンジ起業の手助け、チャレンジスペースの創設は、どうかと考える。

**答** (町長) 町内の団体や民間の経済界、民間の事業者の方が熱い思いを持った。これを進めていこうというところに、共に歩ませていただきたいと思っている。

**問** あいしゅブランド仕掛け計画について

**答** (副町長) まちの資源を生かした魅力あるプロジェクトを起こすとともに、中山道が起点となるマーケットをつくり出し、地域の方々のつながりを広げることで住民の創造性を誘発し、自らがやりたいことにチャレンジできる環境の創出など、人とひと、人と資源がつながる好循環、これを生み出してまいりたい。地域おこし協力隊の制度で外部から引き寄せる人材と地域におられる専門的な知見を有される方々のパートナーシップで起業を進めたい。